

釣れ釣れなるままに

2006年思い出の釣行記 PART. 7

シメツケ釣狂想曲



☆釣行日 平成18年9月16(土)・17日(日)
☆入釣場所 増毛箸別川河口
☆釣果 無し

シャケ釣り開眼？

釣り場確保のための気遣いが煩わしくてシャケ釣りを敬遠していたが、最近ではウキルアーが主流となり、私のような気弱な者でも釣りをさせてもらえるのではとの希望的観測で始めることにした。シャケ釣りに関しては本州からの来道者もあり、道内に住む釣り人の端くれとして手を出さないわけにはいくまい。

午前中は、釣具店でシャケ対応の釣り具を見繕う。手持ちの竿やリールでは心許ないので手軽な1万円程度のセットモノを購入する。浜益経由で増毛に向かう。浜益川道流堤では、シャケの姿は見えない。そのかわり浜益川調査捕獲事業のため、会費9000円を支払った釣り人でごった返していた。テントを張っていた御仁は、朝方、5本釣ったが、どれもヒレに掛かってくる程の群れだったと豪語していた。これってギャング釣り？

暑寒別川では、河口に向かって背ビレを出したシャケが群れており、その見学者達がシャッターを切っていた。そして、500mの河口規制の左外れでブッコミをしている者1名、右外れでウキルアーの者が1名いた。箸別川河口に釣り人の姿が見えるが通り越す。朱文別川は河口が開いておらず、釣り人はいない。信砂川セイコーマート前にはキャンプがてらのブッコミによる釣り人が所狭しと並んでいた。

箸別川河口に戻る。河口にある砂利浜の広場は漁業者や工事関係者に手よっての車両進入禁止のロープが張られていた。作業の邪魔になるということらしい。国道沿いに何台かの車が駐車してあったが、私は、迷惑がかからないようにと遠く離れた道路脇に駐車できるスペースを見つけて、そこからテクテクと歩き河口に入った。

箸別川は河口規制がなく、10名ほどの釣り人がおり、その仲間に入れていただいた。様子を聞くと、9月初めに一度群れが入ったが現在は釣れておらず、今日もだめだろうとのことだ。沖に鳥山が立ち、その海面がざわめいており、私には新しいシャケが群れをなして押し寄せてきているように見えるのだが・・・。

夕闇が迫ってきた頃、隣の人が1本上げた。色めき立って竿を振り続けたが何も起こらない。周辺の釣り人に比べて飛距離が足りないように感じ、ナイロン2.5号を巻いたリールに替えてみると、周りとは遜色のないほど飛ぶようになった。しかし、私の竿には何も変化が起こらなかった。他の釣り人が引き上げ、誰もいなくなったのを見届けてから帰宅した。

消化不良に奮起

消化不良を感じ明朝も挑戦してみることにする。2時半起床、4時には箸別に着いた。



午後の箸別川河口

河口には15名ほどが明け方を待って渚にたたずんでいた。私もその端（写真中央の釣り人がいる辺り）で腰を下ろしたのだが……。その奥100m程進んだところで釣りをすることになる。

河口では、たくさんの釣り人が石原に佇み明け方を待っている。その内の気の早い者はケミカルライト対応ウキを遠投している。その釣り人たちの端っこに腰を下ろすと、暗闇の背後から凄味のある声がかかった。暗闇で気がつかなかったが、縄を張って場所取りをしていたブッコミ狙いの釣り人がいたのだ。縄張りのハズレまで100m程を移動する。

遅れて来たウキルアーの釣り人2名と一緒に準備する。自分は昨日始めたばかりの全くの初心者でと挨拶をし、指導を願い願ってからルアーをおもいきり飛ばす。「初めてにしては、随分コントロールがいいねえ。シャケはそのような初心者に掛かるモノだ」との励ましで僅かな希望が膨らむ。しかし、気をよくしての2投目で更に力強く竿を振ると、今度は竿から仕掛けが離れて飛んでいった。手元を見るとリールベールが戻っていた。

私が竿を振っている手前に2つの横長の岩が頭を出しており、慎重にルアーを取り込むようにしていた。その岩の向こう側の深みに沿ってシャケの背ビレが通る。隣人がそこにルアーを送り込んだ。すると、すぐにアタリが出て、ギョッ、ギョッ、ギョと合わせを入れて取り込んだ。周辺では待望の1本となり一気に活気が漲る。その後、左側で6本、右側のブッコミで1本あがった。河口付近では釣れていないようだ。

私にもコツコツと小さなアタリがあるのだが、ハリ掛かりしない。6時半、今までと少しオモムキが違ってクイッ、クイッと来たところを向こう合わせで一気に竿が伸された。

グーンと道糸を鳴らして横に走る。腰をためてその強い引きに耐えていると、フツとルアーが外れて後ろにもんどり打って倒れてしまった。シャケが走り始めた時点でそのシャケを我が手中にしたと思ったが、そう甘いモノではなかった。ショックを引きずりながらも次の一投を力強く振った。すると、今度はベキッという鈍い音とともに安竿が真っ二つに折れてしまった。またまた、安リールのベールが戻っていたのだ。その後、竿を替えてはみるものの音無で時は過ぎていき、8時半には竿を仕舞った。

シャケ釣りという未知の領域に手を出してしまったが、足抜きをするまでには相当時間がかかりそうだ。

```

/...../
| ☆釣行日   平成18年9月23日(土) |
| ☆入釣場所  増毛箸別川河口 |
| ☆釣果     シャケ 82cm(オス), 75cm(オス), 71cm(メス) |
|...../

```

待望の1本、そして・・・

先週の鬱憤を晴らすために、再度の挑戦である。前回購入したセットモノはゴツイ竿の割に胴が軟弱でしかも傷でもあったのか簡単に折れてしまった。先調子の細い竿を見繕ってもらった。セットモノに巻いてあった4号の太い道糸にも不満があり、シマノの4000番のリールに新しく出たファイアーライン2.5号を巻いてもらった。

2時起床、3時半には箸別川に到着した。前回よりは早く到着したので河口にはまだ釣り人が少ない。前回注意勧告を受けたと思われるブッコミ釣りの人に状況を聞くと、「何で河口に入ろうとするのよ。河口よりこの先の湾になったところのほうが釣れるぞ。昨日は一人で8本も釣った者がいたんだ。そっちに行ってみれ」

それではということで、比較的空いている河口を敬遠し、前回のところを目指した。しかし、そこにもブッコミの縄張りが続いており、更に奥の縄張りが消えたところで荷を下ろす。磯はゴツゴツとした岩が剥き出しになっているのでブッコミも敬遠していたのだろう。一応挨拶だけはしておいて、台座になるようなコンクリートに乗ってケミカルライトを付けたウキルアーを飛ばす。

1投目、2投目、3投目・・・、順調だ！前回練習したこともあり真っ直ぐ沖に飛んでいく。隣でブッコミが始まった。正面に向かって慎重にルアーを近投する。順調だ！ブッコミの仕掛けが私の正面に落ちた。それを避けて、方向をずらして打ち続ける。順調だ！しかし、フツと気を抜いた途端、少し逸れて正面にあるブッコミの方にウキが飛んだ。ブッコミの糸にかからないようにと、リールを素早く巻く。巻いている途中で背後から大声が飛んできた。それまで静かだった辺りが騒然となる。そのブッコミの仲間が口々に「馬鹿野郎」「何やってるんだ」「邪魔だ」「退けろ」と罵声を浴びせてくる。意気消沈、すごすごと退散する。

誰もいない湾洞の一番奥まったところで、後からやってきたウキルアーの人たちと一緒に遠投をくり返した。しかし、その周辺ではシャケは1本も掛からなかった。そして、先程のブッコミの場所からは、何度か大きな歓声が聞こえてきた。

8時半、河口の様子を見に向かうと、途中のブッコミでは一人につき3～5本が袂に置かれていた。河口でも一人1～2本あげていたようだ。朝の喧噪をよそに帰り支度を始めているので私にも入る隙間が出来そうだ。

プロローグ 9:00

一人分のスペースが開いたので両隣に断ってから入れてもらう。なんの支障もない。多少、道糸が交錯することもあるが、「すみませーん」「お互い様だから」と声をかけながら解決できる。しかし、時間が時間だけに、シャケからの音沙汰が無く、みんな次々と引き上げていく。いよいよ10名ほどになった。ルアーをオレンジのアワビ張りにチェンジした。

狂想曲第1番 9:50

何度、同じことをくり返しただろう。今回も闇雲に投げてからルアーを引いている途中、ゴツゴツとアタリがある。今まではそれが食い込むようなことはなかったのだが、更に静かに引き続けるとグググッとウキを消し込んだ。竿を2度、3度と鋭く煽る。ギューンと糸鳴りがしてウキが疾走する。ドラグが少し甘過ぎたようだ。ジーッ、ジーッと糸が沖に向かって出ていく。シャケが少し休んだところでドラグを締め直す。後は無我夢中で取り込んだ。少しブナがかってはいるが立派なオス（写真中央）である。皆は木槌でやっているが、私は持ち合わせが無く、手頃な石で頭を叩く。静かになった体にメジャーを当てると75cmだった。至福の一服。紫煙が初秋の青空に吸い込まれていく。

狂想曲第2番 11:05

投げ込んですぐにゴツゴツとアタリが出て道糸がキーンと鳴った。今度は先程より引きが弱い。周辺に人が少なくなったことに併せて1本釣り上げた余裕もあってシャケの引きを十分に堪能しながら上げた。今度は銀ピカのみス71cm（写真左）だった。



少し休憩をとることにして、女房に電話する。一応、祝福の言葉をかけてくれるのだが、自分の気持ちの高まりに比べるとなんだか物足りない。この界限に釣りに来ている同僚に連絡を試みる。留守番サービスにしか繋がらなかったが、この胸の内を伝えることは出来ただろう。夕方、祝福の電話をかけてくれる。釣りを愛する仲間として女房にはない感情が伝わってくる。

狂想曲第3番 12:15

河口付近がなんだかざわめいている。いつもは手前にある根にルアーを取られないようにとリールを素早く巻いていたが、ゆっくりと丁寧に引いてみる。ほんの目の前にある二つの岩の隙間を過ぎてからゴツゴツとアタリが出て、一気に竿を伸された。かなりの大物だ。何度かのやり取りの後、ようやく引き上げ

た。強くブナがかかり鼻曲がりの口に鋭い牙を携えた82cmのオス(左写真中央)だった。

エピローグ

カツオのエサが底をついたのは、午後1時を回っていた。シャケ釣りを十分堪能することができた。自分への祝福として昨日の夕食から何も口にしていない空きっ腹に増毛の特上鮭をご馳走することにした。しかし、休日とあって寿司屋はどこも混んでおり、焼き魚定食になってしまった。鮭は時間がかかり、旬のハタハタが美味しいとのお勧めで、すぐに出て来た唐揚げは、ほんとうに美味しかった。

銀ピカのメスには筋子がびっしりと入っていて、早速醤油付けにする。肉は真っ赤であった。オスの方は少しブナかかっているのでフライにさせていただく。頭は3匹分を鍋にする。具は大根だけだが、この塩スープが旨い。そして、ブチュブチュと口を鳴らして軟骨の間のゼラチンを啜り、いつまでもシャケ釣り狂想曲の余韻を楽しんだ。

【つれづれ】

高級海ロッド	19,300	-15%	-2,895	16,405
スピニングリール	11,300	-15%	-1,605	9,695
糸 ファイアーライン2.5号				3,591

ウキ釣り仕掛け	1, 0 4 0
アキアジクルセイダールーW4 5 G アワビブルーD	1, 1 3 0
ウキM	5 4 6
ヤマシタタコベールハリ	3 3 0
ヤマシタタコベールハリ	3 7 5

3 3, 1 1 2

開きカツオ	2 9 0 × 2	5 8 0
エビ粉塩カツオ		4 0 0
ヤマシタタコベール2. 5 KG-8 2		3 6 0
畑山式アキアジSF張替 固定深棚M		4 8 0
アキアジクルセイダーW4 5 G アワビオレンジD	1, 0 8 0	
ヤマシタヘリンロングコンビ4 0 g SLDX-1	1, 0 8 0	
ヤマシタヘリンコンビEX4 0 g BLHB	1, 1 6 1	
NPKウキ止め糸M NO. 5 6 6		7 0
NPK パワーストッパーL NO. 8 7 8		1 1 0

○8 2 cmオスはホッチャレで、身はピンクから白に変わっていくところだった。

○半身を1 / 2に切った大ぶりの身はフライになる。ビールも酒も進む。

○釣りには感心のない職場の同僚から感想を聞かれる。1本目を釣るときまでのドキドキ感がたまらない。しかし、2本目が釣れて、3本目になったら飽きてしまった。シャケ釣りにはあまり行かないだろう。やはり、あの混雑ぶりが気に入らない。新鮮なシャケが食いたくなったら出かけることにしようか・・・。

○釣り大会に比べると何だかつまらない。釣技を競い合う仲間がいないからだろうか。

○川で引っ掛けをする若者(馬鹿者)がいた。海に向かって何度かやっていたが掛からず、川でやり始めたのだ。次々とシャケを引っ掛け10匹ほどを手にしていった。釣り上げたシャケは石の下に埋めたり、鰓を切り取ったりで処理は若いにもかかわらず手慣れたものだった。真似をする若者が何名かいたが、そちらには掛からなかったようだ。

【ブッコミ氏の憂鬱】

○ブッコミを批判しているかのような自分本位の表現になってしまった。ブッコミ師の気持ちになってみる

箸別川にシャケが釣れ出す時季だ。少し早い8月末に海岸縁に縄を張りに行く。行ってみるとすでに実績のあるところは、仲間に占められていた。その端に控えめに竿2本分の縄を張った。河口の正面はルーア釣り師が無理矢理入ってくるので、皆が敬遠している。ようやくシャケが釣れだしたと聞いて、早朝の2時から縄張りを守る。最近は頓に早くなってきた。縄を張ったとはいえ、ルーア釣り師がその前に入ってくるからだ。竿の準備

が出来た。後は夜明けを待つだけだ。しかし、4時、私の前にルアー釣り師が腰を下ろした。岩が出ており取り込みに苦労するところなので俺たちブッコミもそれを避けていたのだ。奴が私に話しかけてくる。こういう手の者が厄介なのだ。シャケ釣り情報を聞き出し、「なるべく迷惑が掛からないようにやらせていただきます」と言う。「なるべく迷惑をかけるないように」だと。「なるべく」という言いぐさはなんだ。昨日の晩も、そこは岩が出ているので取り込みは無理だと忠告しているのに無理矢理入ってきて、シャケを掛け、その岩を避けてこちらに誘導しながら取り込もうとした。しかし、シャケに走られて挙げ句の果てに、俺の道糸に絡んでしまい竿から全て根こそぎ薙ぎ倒していく。「すみません」と声をかけてきたが、「すみません」の一言で片付けてしまう心境が分からない。おかげで自分の仕掛けは絡んでグチャグチャになるし、その日の釣りは諦めなければならなかった。そんな人の苦労や気持ちも解らず、そのルアーマンは釣り続け、シャケを8本も上げた。

しかし、今日は、作戦を立てている。ルアーマンがやり出しても、ぐっと我慢して、自分の仕掛けに絡んだ時に、仲間に声をかけてもらうのだ。気弱な俺では、やめてくれとは言えない。

やっぱり、暗い内からやり始めた。ご丁寧なことにウキにケミカルライトを付けて、飛ばしている。ほんの磯際でやっているから、岩に当たった波が降り注いできているのに。磯際でやるとせっかく岸寄りしてきているシャケを追っ払うことになるのに……。

少し、夜が白み始めてきた。俺も、投げるとするか。1本目は真っ直ぐ飛んだのでよし。2本目は少しずつルアーマンの正面になってしまったか。お前がいなかったら問題のない範囲だ。ルアーマンも近投し始めたので、絡まないように意識しているのだろうか。いつまで続くかな。

おっアタリかな。やっぱり、引っ掛けやがった。みんな頼む注意してやってくれ。隣の仲間が気がついてくれた。大声で「馬鹿野郎」と怒鳴ってくれた。他の仲間も口々に「何やってるんだ」「邪魔だ」「退けろ」と大声で叫んでくれている。少しやり過ぎじゃないかと思うが仲間の心遣いが嬉しい。奴も「すみませーん」なんて言っているけどどんなもんか。でも、効果があったのか、すごすごと逃げていったぞ。これだけの大声だから、もうこの辺りにいるルアーマンは近づいて来れないだろう。新しくルアーマンが来ても、同じようにやればいだけだ。気を遣うけれど、まあ、致し方のないところか。

おっ、早速アタリだ。やった。今年初めてのシャケだ。仲間が喜んで祝福をしてくれる。……。今日は、伸び伸びとシャケ釣りに専念できる。

今日は初めて3本釣ることができた。